

地域医療との連携を大切に、 高度な肺がん医療を提供したい

河崎医師:私たちは地域医療とのつながりを大切にしてきました。横浜市の健康事業である肺がん検診にも協力しています。当院の日本呼吸器学会認定呼吸器専門医が横浜市中区の医師会に出向し、2次読影指導医として、地域の先生が1次読影された画像を拝見しています。地域の先生方と顔見知りになり、肺がん患者さんの早期発見や、読影向上でお役に立てれば幸いです。

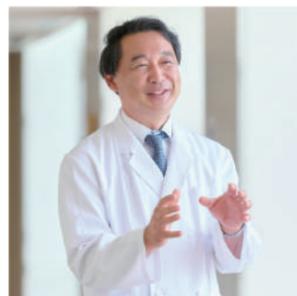
呼吸器病センターは日本人のがんによる死亡原因で最も多い肺がん(2022)¹⁾を中心に、専門性の高い医療を提供し、近隣の医療機関と提携して地域医療に貢献したいと思います。



呼吸器内科部長 河崎 勉

呼吸器疾患で気になるケースは気軽にご紹介を

河崎医師:がんこな咳をはじめとする難治性の気道症状、胸部陰影など、専門的精査が必要と考えられる症状の患者さんがいらしたら、呼吸器病センターにぜひご紹介ください。診療情報提供書を作成していただき、当院の医療連携課などを通じてご連絡くだされば、呼吸器内科、呼吸器外科と指定していただかなくても、呼吸器病センターで対応いたします。肺がんの予防のため、禁煙外来の診察もしています。



呼吸器外科部長 下山 武彦

下山医師:当院は総合病院の強みがあり、循環器や腎臓、内分泌、膠原病、精神などの合併症がある患者さんに対して、関連診療科と連携した治療が可能です。地域の先生方の患者さんに肺がんの疑いがあれば、ご相談ください。呼吸器外科では、肺がん以外にも気胸や膿胸といった内科だけでは対応できない疾患も治療しています。開業医の先生のご紹介のおかげで診断がつくケースも多いので、気になる患者さんをご紹介いただければ幸いです。

INFORMATION

「ご意見箱(医療機関対象)」の設置について

当院では、医療機関の先生方からご意見を承り、より良い病院を目指しております。当院に対してご意見がございましたら、下記のメールアドレスにご連絡ください。

【医療連携課 メールアドレス】

minato-renkei@yokohama.jrc.or.jp

※ご意見は原則として公開いたしません。

※予約、診療に関わるお問い合わせ、職員の個人情報に関することについては対応していません。

※当院からの回答に多少のお時間をいただく場合がございますので、予めご了承ください。

紹介患者さんのお問い合わせ・ご予約は医療連携課で承ります。



横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下3丁目12番1号

医療連携課

電話 045-628-6365(直通)

FAX 045-628-6367(直通FAX)

受付時間 平日 8:30~17:00



みなとからの風 No.53

医療連携センターだより

発行:2024年9月



呼吸器外科部長

下山 武彦

Takehiko shimoyama

呼吸器内科部長

河崎 勉

Tsutomu kawasaki

呼吸器内科・外科が連携し
高度な肺がん治療を提供する呼吸器病センター



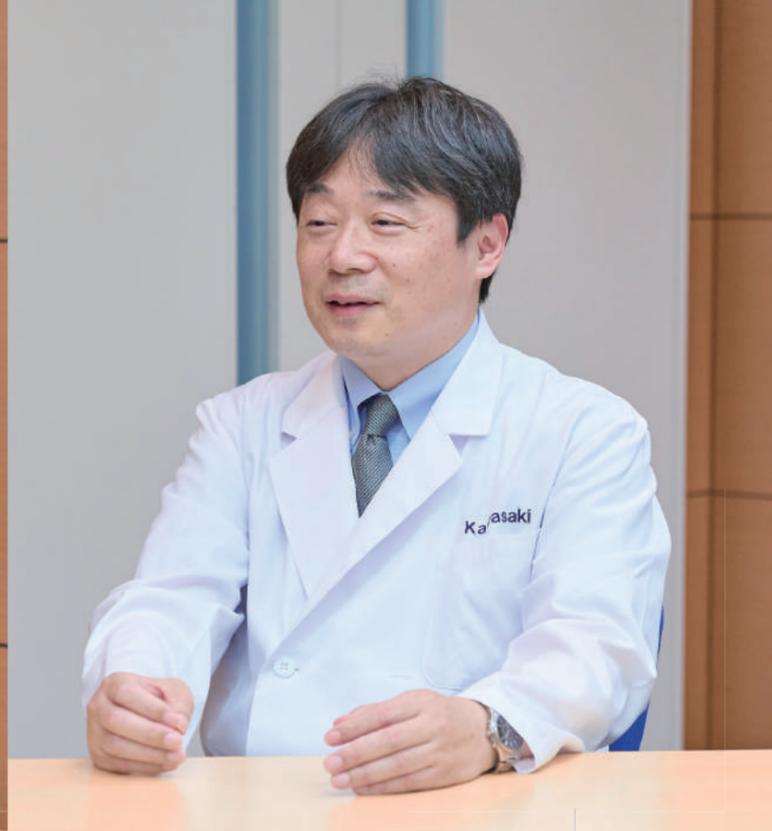
日本赤十字社 横浜市立みなと赤十字病院
Japanese Red Cross Society



呼吸器外科部長

下山 武彦

Takehiko shimoyama



呼吸器内科部長

河崎 勉

Tsutomu kawasaki

Special Interview

呼吸器病センターで他科・多職種連携による、高度な肺がんの集学的治療を提供



インタビュー全文を
WEBで公開中

<https://ganjoho.jp/reg-stat/statistics/stat/summary.html>
(2022年)

横浜市立みなと赤十字病院は2018年に呼吸器病センターは、呼吸器疾患の専門家による診療が特徴です。当院は日本呼吸器学会認定施設および呼吸器専門研修プログラム基幹施設で、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本呼吸器学会呼吸器指導医が在籍しています。また、日本がん治療認定医機構がん治療認定医が、がんの診療にあたる体制です。アレルギー専門医教育研修施設でもあり、日本アレルギー学会認定アレルギー専門医が所属しています。

呼吸器病センターは、日本人のがんによる死亡原因で多い肺がんの集学的治療に力を入れています。日本がん治療認定医機構がん治療認定医が、がん診療にあたるなど、がんの専門家による治療が特徴です。

また、遺伝子パネル検査や肺がんの新しい化学療法レジメンに対応して、それぞれの患者さんに適した治療をしています。手術はリスクを検討した上で、なるべく侵襲の少ない完全鏡視下で行う方針です。

呼吸器内科と呼吸器外科をはじめ、他科・多職種連携で高度な肺がんの集学的治療

河崎医師：横浜市立みなと赤十字病院は2018年に呼吸器病センターを設立しました。呼吸器内科と呼吸器外科が同じ場所で外来診療し、その場で相談して患者さんに対応できる環境です。病棟も臓器別になり、協力しやすくなっています。週に1回カンファレンスと呼吸器カンファレンスがあり、より連携がスムーズになりました。

下山医師：呼吸器病センターでは、特に肺がんの診療に力を入れ、集学的治療を行う体制を整えました。予防から検診、検査、診断、内科治療、手術、放射線療法、緩和ケアまで他科・多職種連携で対応しています。例えば、肺がんの診断やステージの決定は基本的に呼吸器内科が担当し、診断が難しい場合には呼吸器外科で生検も行います。

また、ガイドラインではステージ1,2にあたる早期の肺がんは外科的切除、ステージ3A以降の症例は集学的治療が推奨です。進行症例で手術と薬物療法、放射線療法の組み合わせによって治療効果が期待できるケースもあります。近年、薬物治療が進歩して、診療科の線引きが難しくなっている領域も集学的治療で対応しています。

河崎医師：呼吸器病センターは、呼吸器疾患の専門家による診療が特徴です。当院は日本呼吸器学会認定施設および呼吸器専門研修プログラム基幹施設で、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本呼吸器学会呼吸器指導医が在籍しています。また、日本がん治療認定医機構がん治療認定医が、がんの診療にあたる体制です。アレルギー専門医教育研修施設でもあり、日本アレルギー学会認定アレルギー専門医が所属しています。



呼吸器外科専門医による侵襲の少ない完全鏡視下手術

下山医師：当院では、ほとんどのケースをモニターで術野を見ながら行う完全鏡視下で手術しています。完全鏡視下手術は侵襲が少ないため痛みが抑えられて回復が早く、患者さんの負担が減らせます。クリニカルパスを利用しており、入院期間も約1週間程度となっています。

手術は呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医の資格をもつ医師が執刀しています。完全鏡視下手術には、カメラで術野を正確に映す技術を持つ医師のアシスタントも不可欠です。以前は、肉眼視と胸腔モニターでの観察によるハイブリッド手術を行っていましたが、手術体制の変更によりこの約2年でほぼ完全鏡視下手術になりました。

手術の適応と判断された場合は術前検査を綿密に行い、それぞれの患者さんに適した術式を検討しています。血管や気管支、胸壁への浸潤がある進行症例や巨大腫瘍にはリスクを考慮して開胸手術を行っています。

がんゲノム医療を活用し、それぞれの患者さんに適した治療を提供

河崎医師：当院では、患者さんに適した治療を提供するため、がんゲノム医療に積極的に取り組んでいます。がん遺伝子プロファイリング検査は、がん細胞のゲノムから多くの遺伝子変異を調べ、がん細胞の性質を明らかにする方法です。

遺伝子パネル検査は、それぞれの患者さんに合う薬があるか調べる技術です。生検や手術で採取されたがんの組織を「次世代シーケンサー」にかけ、大量のゲノム情報を高速で解析し、同時に多数の遺伝子を調べます。検査の結果、遺伝子変異が見つかり、変異に対応した薬が存在すれば、その方に適した治療が検討できます。遺伝子パネル検査は主に、肺がんの半分以上を占める腺がんの患者さんに対して行なっています。腺がんでは、遺伝子変異によって無秩序にがん細胞が増殖するケースが多く、遺伝子変異に働きかける薬があるか調べる必要があるのです。

下山医師：手術した方でも将来、再発して薬物療法が必要になる可能性があるため、手術の際に全例で遺伝子パネル検査を実施しています。手術検体では多くのがん組織が採取できるので、より正確な検査ができます。